

的普通の種で、守屋（1997）の既記録に加えて、データは示されていないものの中根（1987）が「東京氷川」産の標本を元に作図しているほか、今回、秋川上流部の別の支川からも確認されており、多摩川中流域から山地にかけて広い範囲で生息する可能性がある。

しかし、ツマキレオナガミズスマシおよびコオナガミズスマシは、河川中流域が主たる生息場所なので、生活廃水の流入、護岸整備等、人為的な影響を被りやすい種と考えられ、現在の多摩川でもこれらの種が生き残っていたのは特筆に値することであると同時に、今後の生息状況についても注視していく必要があると考えられる。

なお、前述したように、多摩川から得られた複数標本をもとに、神谷（1933）はテラニシオナガミズスマシ *Orectochilus teranishii* を記載している。ツマキレオナガミズスマシに近似の種で、上翅端会合部の形状、雄交尾器の形態などによって区別される。今回、この種と同定できる個体は確認されなかった。テラニシオナガミズスマシの基準標本は、佐藤（1977）によると、戦災により焼失の憂き目にあっているとこのことで標本の再確認はできない状態にあるが、筆者らはテラニシオナガミズスマシがツマキレオナガミズスマシのシノニムである可能性も排除できないと考えている。

引用文献

- 神谷一男, 1933. 日本産オナガミズスマシ属並びに 1 新種, 新亜種の記載. 昆蟲, 7(5/6): 240-244.
- 環境省, 2007. 報道発表資料 レッドリストの修正について 添付資料 資料 2 修正版レッドリスト昆虫類 (平成 19 年 10 月 5 日) (<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8886>).
- 守屋博文, 1997. あきる野市の水生コウチュウ, あきる野市植物・水生昆虫調査報告書 平成 8 年度あきる野市水辺生物研究会による秋川・平井川の調査報告書 48-51 pp.
- 中根猛彦, 1987. 日本の甲虫 (82). 昆虫と自然, 22(13): 27-29.
- NPO 法人 野生生物調査協会・NPO 法人 EnVision 環境保全事務所, 2007. 日本のレッドデータ検索システム. (<http://www.jpnrdb.com/>) 2009. 4. 21 更新.
- 佐藤正孝, 1977. 日本産ミズスマシ科概説 (3), 甲虫ニュース, (39): 1-4.
- Sharp, D., 1884. The water-beetles of Japan. The Transactions of the Entomological Society of London, 1884: 439-464.
- Takizawa, M., 1931. The Gyrinidae of Japan. Insecta Matsumurana, 6(1/2): 13-21.

(〒 350-0825 川越市月吉町 32-17 亀澤 洋)
 (〒 245-0051 横浜市戸塚区名瀬町 765-2 松原 豊)
 (〒 215-0021 川崎市麻生区上麻生 6-1-26 柿生グリーンハイツ 101 雛倉 正人)

【短報】岡山県におけるオオヒメゲンゴロウの記録

オオヒメゲンゴロウ *Rhantus erraticus* Sharp, 1884 (図 1) は、主に湿地や放棄水田など水深の浅い水域を好んで生息しているゲンゴロウ科の水生甲虫である (森・北山, 2002). 本種は、岡山県内からは県北の池 1 カ所からのみ確認されていたが (山地, 1990), 近年はその池でも確認されていないようで、「岡山県版レッドデータブック 2009 動物編」では準絶滅危惧にランクされている (岡山県生活環境部自然環境課編, 2010). 筆者は、岡山県内における本種の新産地を確認したので、現地状況と共に報告する。

1♂, 1♀, 岡山県真庭市蒜山吉田, 3. VI. 2011, 筆者採集, 津黒いきものふれあいの里・倉敷市立自然史博物館保管.

1 幼虫, 岡山県真庭市蒜山吉田, 5. VI. 2011, 筆者撮影 (図 2).



図 1. 今回確認されたオオヒメゲンゴロウ.



図 2. 生息地で確認されたオオヒメゲンゴロウの幼虫.

本種は、水田跡のゆるやかな流れのある湿地から得られた。1 時間半程度の掬い採り調査で、採集した個体の他に 20 個体程度の成虫が確認された。また、同湿地では幼虫も確認され (図 2), 1 齢幼虫から 3 齢幼虫まで全てのステージの幼虫が確認されたことから、この湿地が恒常的な本種の生息地となっていることがうかがえる。筆者が行っている近辺での調査では他の生息地は見つかってお

らず、現在のところ岡山県内の確実な生息地はここだけである。しかし、この生息地についても、遷移が進んでおり、ノイバラ、ミヤコイバラ、ヨシなどが繁茂しているので、数年後には本種の生息環境として適さない状況になることが予想される。

末筆ではあるが、倉敷市立自然史博物館の奥島雄一博士、愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士には原稿を校閲いただいた。また、山地 治氏には、県内における本種の情報を御教示いただいた。これらの方々に対し、厚くお礼を申し上げる。

引用文献

- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版, 東京.
岡山県生活環境部自然環境課編, 2010. 岡山県版レッドデータブック 2009 動物編. 416 pp. 岡山県生活環境部自然環境課.
山地 治, 1990. 岡山県より採集した甲虫類の記録. すずむし, (124): 11-19.

(〒717-0513 岡山県真庭市蒜山下和 1077
真庭市津黒いきものふれあいの里 渡部晃平)

【短報】屋久島産ツツヒラタムシ科2種の記録

ツツヒラタムシ科は、一般に日本では採集記録が少ない甲虫で、日本からは6種が知られている(Sasaji, 1993; Aoki, 2008). そのうちの2種、ツツヒラタムシ *Ancistria apicalis* Reitter およびクロサワツツヒラタムシ *Ancistria kurosawai* Sasaji が屋久島から記録されている(Satô, 1970; Sasaji, 1993). 筆者は屋久島初記録と思われる1種を含む2種のツツヒラタムシ科甲虫を所持・採集しているので報告する。

ツツヒラタムシ *Ancistria apicalis* Reitter

1ex., 鹿児島県熊毛郡屋久町花山歩道, 16. VII. 2001, 向山敬延採集; 1ex., 屋久町原, 23. IX. 2002, 同採集者; 1ex., 同採集地採集者, 1. V. 2004; 2exs., 同採集地採集者, 25. VI. 2004; 1ex., 同採集地採集者, 12. VII. 2004.

Satô (1970) および Sasaji (1993) により屋久島から既に記録されている。

ルイスツツヒラタムシ *Ancistria lewisi* Reitter

1ex., 鹿児島県熊毛郡屋久町中間, 1. V. 2004, 田中 稔採集.

佐々治(1985)は九州を分布地として挙げており、屋久島初記録と思われる。

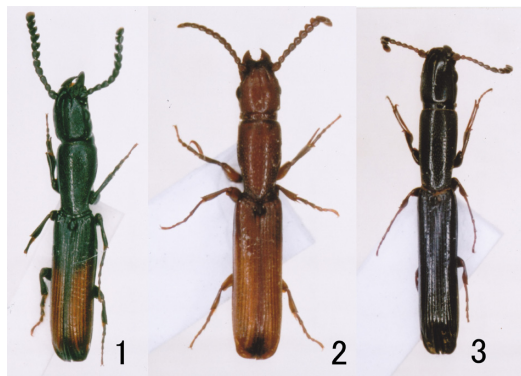


図1-3. 屋久島産ツツヒラタムシ類. 1, ツツヒラタムシ; 2, ツツヒラタムシ(テナルな個体); 3, ルイスツツヒラタムシ.

標本を提供して頂いた向山敬延氏、文献についてお世話になった大平仁夫氏にお礼申し上げます。

引用文献

- Aoki, J., 2008. A new species of *Passandra* (Coleoptera, Passandridae) from Japan, formerly classified as *P. trigemina* (Newman). *Elytra*, Tokyo, 36(1): 37-41.
Satô 1970. Miscellaneous notes on the Coleoptera-fauna of the Ryukyu Archipelago, III. *Bulletin of Japan entomological Academy*, Nagoya, 5: 30.
佐々治寛之, 1985. ツツヒラタムシ科, p. 199, pl. 32. 黒澤良彦ほか編, 原色日本甲虫図鑑 (III), 保育社, 大阪.
Sasaji, H., 1993. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, VII. *The Memoires of the Faculty of Education, Fukui University, Series II (Natural Science)*, (44): 17-25.

(〒663-8002 西宮市一里山町 19-18
田中 稔)

【短報】東京都におけるナカネダルマガムシとハセガワダルマガムシの採集例

ナカネダルマガムシ *Ochthebius nakanei* は, Matsui (1986) が熊本県菊池溪谷産をもとに記載したダルマガムシ科の小甲虫である。

吉富ら(2000)は、原記載地に加えて愛知、栃木、新潟の各県からの既知産地をまとめ、新たに栃木、山梨、大分から記録を追加している。同時期に、豊田(2000)も埼玉県から記録しているが、その産地は概して少ない。

筆者は、東京都の奥多摩町で本種を採集しているので記録しておく。

5exs., 西多摩郡奥多摩町留浦三沢(峰谷川), 21. V. 2011; 25exs., 奥多摩町大丹波真名井沢, 12. VI. 2011;